

第8回 恵那市総合計画審議会

- 開催日 平成23年3月28日（月）
- 時間 13:30 ～ 16:00
- 場所 恵那市消防防災センター
- 次第
 1. 会長あいさつ
 2. 市長あいさつ
 3. 会議の公開、会議録の公表について（確認）
 4. 議事
 - ①総合計画前期計画の成果（見込み）について
 - ②市民意識調査の結果について
 - ③総合計画後期計画の進行管理について
 - ④意見交換
 5. 報告事項
 - ①平成23年度施政方針・主要事業について
 6. その他
お礼のあいさつ

●欠席者（敬称略）

総合計画審議会委員

加藤光明、松井眞、宮地政臣、伊佐地良一、市川美彦、後藤俊彦、駒宮優子

●傍聴者

3名

■事務局 3月11日に発生した東日本大震災で亡くなった方にお悔やみを申し上げるとともに、被災された方にお見舞いを申し上げます。

1. 会長あいさつ

有本会長 今も避難所や、県外に避難されている人にもお見舞いを申し上げたい。一市民としてできる限りのことはしたい。

私は1978年に当時各務原市にあった岐阜大学農学部にて奉職した。仙台で5年間学生生活をしていて、ようやく農学部の助手になり今頃岐阜に来た。連休明けに宮城沖大地震があった。津波の印象はないが、何日かして研究室に電話したら、6階建てのビルが大揺れに揺れて、90平米の書棚が全部倒れて棚の鉄骨もぐちゃぐちゃになり、元に戻すのに大変苦勞をした職員がいた。その方が松島駅の近くに住んでいて何度か遊びに行った。この度の大地震で心配になって、震災10日後電話したら、床上浸水をしたが怪我は誰もしなかったということだった。松島のたくさんの島が自然の防波堤になったようで、東の東松島市は被害が大きかったが、松島町はなかったということだ。たくさんの方が被害に遭われたことが残念だ。

当時こちらに来てすぐ東北で大きな地震が起こったので、もうしばらく東北では地震がないものだと思っていた。その後30年間ずっと聞いていたのは、東海、東南海、南海大地震の可能性の高さだった。大地震はずっと私の近くで起こるものだと思っていた。今回阪神淡路大震災の千数百倍の大きな地震だということだ。

それに伴い、原発事故もあった。世界的に見ても極めて大きな被害で、チェルノブイリのちょっと手前ぐらいの被害だと言われている。これから日本の社会、将来に向けてどう再建するか、被害そのものの算定も重要だが、心配しながら見ている。

審議会の6番目の柱に、市民と行政との協働、市民参加がある。復興の財源、国の財政危機の中で災害の予算を執行しなければならない。地方自治体もつながっている。行政だけに頼るわけにはいかない。市民が、お金がなくても、気持ち、時間、エネルギー、知恵を出し合って、行政と協働しながら、生活を全うしていくことが求められている。

この地域でもこれからの新しい社会を切り拓く心構えで、市民間、行政と市民との協働を前向きにやっていけたらと思う。

2. 市長あいさつ

市長 東日本大震災では、恵那市も24日から4日間市民から支援物資を受け付け、約800名から約4tの物資を受けた。宮城県へ送った。義援金も出してもらった。お礼を申し上げます。東海地震、東南海地震、南海地震も発生率80%で、いつ震災になるか分からない。総合計画にあるように、災害に強く安心安全なまちづくり、これが今のままでいいのか、見直す必要があると思っている。防災体制、避難体制が現在の形でいいのかどうか。事務的に再整備して提案する。今日の新聞では、福島第1発電所は10mの津波を想定していた。東北電力女川発電所では14mを想定していて、明暗を分けている。女川発電所には300名近い人が避難している。基本がしっかりしていればああいうことはなかったと思える。体制、意識をつくる上での考え方を再検討する必要がある。

る。

本日は最終の総合計画審議会だ。平成 21 年の 5 月から今日までお世話になった。農業委員会の会長が変わったので篠原委員は本日からだ。

後期計画を策定していただき、それに沿って平成 23 年度予算を策定した。総合計画後期計画、第 2 次行財政改革大綱も策定しているので、それに沿った仕事をする。その初年度という意味で、しっかりやらないといけないと議会でも説明した。施政方針でも述べている。総合計画の達成見込みは、100%ではないが、ある程度進捗したと思う。一方では行財政改革大綱も効果額として 94.7%という高い達成率だ。当初心配した財政問題も一定の進捗ができたと思う。平成 18 年に夕張市が破綻した。全国の市の倒産危険度ランキングをダイヤモンド誌が掲載した。岐阜県で一番夕張市に近いのは恵那市だという報道があって、私もショックだった。それを受けて行財政改革を進めた。今では県下 21 市のうち 7 番目になっている。長期財政計画に盛り込んでもらったように、それを堅持していかなければならない。

今回は、意識調査の結果を説明する。恵那市民は市政に関心が高い。2,500 名に無作為抽出でアンケートしたら、回収率 1,585 名、63.4%。第 1 回の平成 17 年が 67%、平成 20 年 55%で、こういった意識調査では高い回答率だ。この内容にも目を通していただきたい。市民のニーズが変わってきている。今後、後期計画を策定したのでその推進、進行管理をするため、総合計画推進市民委員会を設置する。皆さんのおかげで地域計画を含めた総合計画後期計画を策定でき心からお礼申し上げる。

3. 会議の公開、会議録の公表について（確認）〔全員了承〕

4. 議事

有本会長 年度末最後の審議会なので、事務局の報告時間をできるだけ短くし、この 2 年間の感想、次年度の委員会への要望を④でいただきたい。

①総合計画前期計画の成果（見込み）について

②市民意識調査の結果について

〔事務局から資料に基づき説明〕

会長

御意見はあるか。

私から質問する。19 ページ全政策マトリックス表。象徴的なのは、魅力ある働き場の確保と、商店街のにぎわいが、不満度が一番高く、でも重要度では働く場所が高いことだ。不満度は高いが重要だと思う人が商店街のほうは少ない。商店街や商店に関わる人が不満を持っている。不満度は高いがそれに○を付ける人が多いか少ないかで不満度が決まってしまう。それで重点課題から一般課題に落ちている。その通りに理解してもいいか。あるいはむしろ不満度が高いのでそれも加味して考えないといけないのか。

もう一つ。市民参加の件。27 ページの上に、地域活動づくりに参加したいと思うかで、機会があれば参加したいというのが、震災の前だが多くの方が付

けている。答えた人は、機会があればという文章で○を付けたが、どういう機会かは分からない。どういう機会か調べてその機会を提供する必要がある。アンケート結果は宝の山だ。しっかり吟味して方向性を定め生かしていくと有り難い。

事務局 今回の意識調査の概要版は、1月の終わりから2月に行いまとめたばかりのものだ。もう少し詳しく分析した資料を今作成途中だ。今ご指摘のあったことは、今分析をしているので、来年度の進行管理の際には可能な限りそういう資料も示して説明したい。

③総合計画後期計画の進行管理について

[事務局から資料に基づき説明]

会長 この課題への意見も、次の意見交換の中に含めていただくこととしたい。

④意見交換

会長 個別に皆さんから意見をいただく。2年間の委員会の感想、次年度への期待をお話していただきたい。2分以内でお願いします。

委員 21年度から委員になり、総合計画の中で地域計画を含め会議を重ねた。私たちは町の関係なので、山岡町については内外ともにいろいろな考え方があり、山岡町の態勢を踏まえて地域計画、総合計画に取り組んできた。その中でも、人口減少対策にも取り組んできたが、やはり時代の流れには勝てない。日本中同じように取り組んでいる課題だ。原因と課題、対策を2年間語り合ってきた。この問題は、今後実行の段階に入るのがこの5年だ。危機感がなければどうにもならないので、各地区のリーダーは危機感を持って5年の計画とともに考えていきたい。

委員 資料で気になることがある。アンケートのマトリックス表が総合計画の後期計画の中にどう反映されているのか。部会の大割りを見ると整合性が難しい。それをうまく合わせて住民のニーズを汲み上げてほしい。2年間やって、今頭の中がごちゃごちゃだ。大正村百年も進行中だ。住民のリーダー養成に力添えいただきたい。

委員 総合計画立案、実行の過程で、広く皆さんの意見を吸い上げ会議を重ねてやることは非常に意義あることだ。手法としてはいいが、恵那の将来のために広く意見を集約するというだけでは超えられないことがある気がする。市民の批判は、みんなの総意だからということで受けずにいられるということはあるが、そこを超越した施策がないと、この厳しい時代を乗り切れないと思う。

委員 市民調査の概要を見た。良くなったところは点線で囲って示してあるが、悪いところを線で囲んで、足りないところを指摘をしなければ次に進むテンポが遅くなる。

委員 地域計画を立てて、来年度からの委員に進行管理をしてもらうことが、市民の中で芽生えてきて実行されていくといいと思う。上矢作は過疎地なので、人が減り、バスも不便で、買い物にも行けない。何とかしないといけないということをみんなで考えていけるといい。

委員 総合計画策定の一番最初からかかわっている。10年という、長引く経済不況、人口減少、高齢社会、最近の政権交代、大災害の中で、今計画の見直し

をして後期が始まる。見直しや計画の変更が必要になっている。後期プロジェクトが2つ立ち上げられた。こういう見直しの必要性は今後も起こるだろう。

私は健康福祉と生活環境を担当した。部会では何度も委員会を開いてやるが、意見は意見で部会から出すが、行政で予定している施策や現実に行われていることの変更がなかなかできないし、新たなことに取り組むには準備が足りない。市民の意見と行政の実際が少し合わなかったりする。市民が政策決定するときをこれからつくって、名実ともに市民参画でやるベースを作りたい。行政も市民も意識は高いので希望はある。

委員 今まで目を通さなかったところに目を通すようになったり、見る目が変わってきた。例えば、各公民館がコミュニティセンターに変わったという話を聞き、地域懇談会でコミュニティセンターを指定管理する第一段階かという見方になったり、資源ごみのセンターが今度できるが、施設の維持費はどうなるかということを考えるようになった。ここに関わって勉強になった。

委員 2つ聞きたい。総合計画でアクセルを踏んで外部評価委員会でブレーキを踏むという関係はどうなのか。それと、東日本大震災の被災者の受け入れをして人口減少対策をしてはどうか。現状を教えてください。

13地区の意識調査の回答者にばらつきがある。3、4%台が半分ぐらいの地区がある。議員定数が削減されたので、ますますこれが加速する。市民の意見をどう的確に反映するのか。中日新聞で、議会改革の特集があり、恵那市は定数削減しさらに政務調査費をなしにするということで載っていたが、その反面市民にどれだけのリスクがあるのか検証されていない。

委員 市民意識調査の回答者は、旧恵那市の、特に東野、三郷、笠置、武並、中野方、飯地で少ない。故意なのか。総合計画の前期、後期を見ても、南方向に力が非常に入っている。これで旧恵那の回答率がもっと多くなった場合、緊急医療の体制や、自主運行バスの便利性については不満度が上がると思う。旧恵那に対して、施策がゆるいと思う。

委員 この審議会で、行政の側もかなり企画とか遅くまで一生懸命やられ、市民の手で総合計画ができたことがよかったと思う。同時に、行財政改革大綱との整合性を図るべくより一層深めてほしいと思う。進行管理をしっかりしていただき、実効力のあるものにしてもらいたい。

委員 計画策定の中で学校教育に携わってきた関係上、市民意識調査で子どもの道徳心やしつけの向上で42.8%、この結果を踏まえて将来どういう方針を考えるか。

私から提案がある。教育は最も大事だ。米百俵問題という幕末の問題があったが、教育に力を入れるべきである。国語の重要性、特に昔は素読があった。意味が分からなくても大きな声を出して立って本を読むという学校教育があってもいいと思う。

東北の震災で感じたのは、市民意識調査に防災関係のことがあるが、ある意味では警察よりも消防隊員を見ると頼もしく、信頼性が私にはある。そういう意味で、もう一度見直してもいいのではないか。消防署の隊員の位置付けは重要だ。

委員 ボトムアップの意見の吸い上げと、時には市長からのトップダウンがあってもいいと思う。このようなやり方は今の時代に合っていてとてもいいと思う。今回は長期財政プロジェクト、前は健康の委員会に参加した。一市民として、こういう形で市政が決まっていくということが分かった。議会や行政に、一般の人の意見がどう吸い上げられていくのかと思った。面倒くさいと考えている人に働きかけることが大事だ。市民のいろいろなグループで話されて

- いるような末端の声がもっと上に行くといいと感じた。
- 委員 文化振興会長としては今期半分しか出ていないが、前は違う立場で出ていた。議会に出ていたことがある。市の方も議員も恵那市のことを考えているということを実感した。市の答弁を聞くと、多面的に考えてやっている中の一つだと感じて、よくやっていると感じた。ただ、こういうものが効果を上げるには、市民一人一人の意識を高める努力が大事だと思う。そういう施策が大事だ。例えば、恵那市でのことではないが、環境問題は国を挙げてやっている。環境に対する意識が上がってきた。道端のごみも、20年前とでは差がある。
- 委員 教育文化、市民参画の部会だった。今回の大災害を見ると、まちの総合力が問われている。避難所での行動の中で、特に高校生、中学生が協力し合ってリーダーとして行動している姿、また避難所で自治組織を作って運営している姿があった。総合計画の後期計画を作ったということは、基本になるのは市民一人一人が助け合って恵那市を築いていくということに尽きる。審議したことが無駄にならないように、恵那市民が参加して助け合う進行状況になるようにするべきだ。
- 委員 市民の意識調査を見て、恵那市の中で地域によって意識が違うことを感じている。恵那市を一つにまとめるにはこういう計画でないといけないのかと思う。地域のことはその地域の市民が解決していくことが大事だ。行政に任せるということではなく、市民がいろいろな計画を立て、地域が発展するようにすることが大事だ。我々が恵那市を作っていくという意識をこれからもっと考えていく必要がある。
- 委員 前任者からの引継ぎで参加している。私が引き継いだとき計画がほとんどできていた。せつかくこのような会に出させてもらうので、何か提案、意見が言えないかと思いつつ、結局問題意識を持つまでに至らなかった。申し訳ない。
- 委員 私は今日が2回目だ。この会で審議をするまでには出席していないのが残念だ。調査に対する回答の年齢を見ると、20代、30代の意見が少ないし、もう少し若い人の声を聞くべきだと今日の会でも思った。この委員の中にもっと若い人が入って参画すべきだ。各委員が高い意識を持っているのに敬意を持った。私もいろいろな委員会に出ているが、もっと今以上に真剣に参画すべきだと感じた。
- 委員 東濃東部には産科が少ない。中津川市民病院と開業の女医さんだけだ。市立恵那病院にも産科がほしい。人口減少対策にもプラスになる。健康づくりについて、特定健診指導が軌道に乗ったが、受診者がまだ少ないので、関心を持ってもらい、増やしたい。防災と消防について。恵那医師会では年1回恵那市・中津川市の消防署との協議会を開いている。大災害で、防災の見直しがされるということを岐阜大学の教授から聞いている。昨年文化センターで救急隊の発表会があった。すばらしかった。医師会の皆さんにもこういう競技会を見てもらいたい。大村教授、市立恵那病院、中津川、東濃厚生、土岐総合、多治見県病院のドクターの話があつて勉強になった。
- 委員 健康福祉生活環境部会だった。毎日の生活に直接かわることで、私も高齢で、考えさせられ、勉強できてよかった。まちづくりの重要度の高いところはこの部会の担当したところだ。ますます重要な課題として推進してほしい。
- 委員 昨年12月に農業委員会会長が改選になりそれから参加している。私は年を取っているのもっと若い人のほうがいい。農業の満足度が非常に低い。私もそう感じる。これからどういう施策が取られるかが問題だ。居住意向が60何%というのを、満足と取るのか、妥当だとするのか。事務局

- 委員 はどう読むか聞きたい。考え方としては、市民活動的な拾い方も必要だが、一本の柱の進め方が大事だと思う。三宅さんと同じような意見だ。
- 委員 地震で恵那市も物資等を支援しボランティアにも大勢の市民が参加し、動きが早くて素晴らしいと思った。地震被災地で、中学生、高校生が自主的に市民の先頭に立って行動しているのをテレビで見て感動した。私たちが暮らしていく中で、年配の人、知識を持った人が計画を作り進めていくのも大事だが、若い力、未知の計り知れないエネルギーを持った人たちと一緒にあって、みんなで知恵を出し合って進めていくことが大事だと感じた。
- 委員 市民意識調査の中で、選択された回答の中に、どちらともいえないというのが多い。これを探っていくと、宝の山が埋まっているかもしれない。どちらともいえないという意見を、考えて施策に反映すると思う。
- 委員 総合計画の話以前に紹介したい。昨日、恵那テラスの閉店前に多治見から20代ぐらいの立派な青年が来た。精神的に少しおかしい子のように見えた。東北関東大震災義援金という箱を持って募っていた。職員3名が、閉めてから外を見たら、トイレの前の公衆電話のところでガラッと開けて、札だけポケットに入れて、コインだけを拾って、持っている義援箱に入れた。平然とそれを持ってまた駅に歩いて行った。今度の震災で、皆さん頑張っていて応援しているが、逆にそういう人がいるということも我々は承知しないといけない。今朝のミーティングでは、お年寄りの家に行ったらお年寄りはお金を渡してしまうんじゃないかという報告があった。
- 委員 私も総合計画の前期計画に携わってきたが、私は前期計画で、計画数値として540億円の計画を立て、その92%の497億が達成できたのが評価だと思う。もう一つは、住民参画分野の満足度。12項目ある。そのうち11項目まで上がっている。1項目だけ下がっている。市民が行政に関心を持ってきたということだ。5年間で市民が行政に関心を持つということは、行政に意見を言うが行政に協力しようという姿勢が見られると思う。市民が総合計画、市財政、施策に関心を持ってきたことが大きな評価だ。
- 委員 9月に防災の日がある。私も参加している。避難所に来るとき、ある地域は橋を3つも4つも越してくる。橋が落ちたらどうするのか。そこ1カ所に集合することがいいのか。地域によって最適な避難場所をつくる事が大切だということのを常々思っている。見直しをするいい機会だ。地域も協力する。
- 委員 職員でリニアの研究会がされている。2027年に開通する。今年度内に駅が発表されるというときが来た。これは、我々も無関心ではられない。近々、市民も巻き込んでリニアに関する研究会を立ち上げてもらいたい。
- 会長 長期財政プロジェクトに入っていた。行政の財政は専門用語が出てきて分かりにくいことがたくさんあった。職員から教えてもらった。勉強になった。副会長だったが何もできなかった。
- 会長 委員と事務局が個別で話せることはカットして、委員会全体の皆さんにしっかり伝えておきたいことがあったら事務局から願います。
- 事務局 意識調査の居住地域の回答にムラがあることについて。無作為抽出をしている。人口の多い大井町、長島町は回答数が多くなる。回答はばらつきがある。結果としてこうなった。特に恵南にたくさん送付したというわけではない。意識調査について。市民の声をどう反映するのか。今回の総合計画は、市民との情報共有を大事にし、行政から市民に情報提供して、市民にまちづくりに取り組んでいくということで、市では情報共有の指針を作っている。協働のまちづくり指針に基づき、市民とのまちづくりを進める。
- 事務局 意識調査で、どちらともいえないという回答が多いということ。アンケートを送付した皆さんのターゲットを絞っていないので、例えば学校教育の質問

に対して、子どもを持たない方などはどちらともいえないという回答が多くなってしまった。ただ、できる限り分析したい。

行政評価、外部評価は、市の事務事業をより良く進めるための改革改善のため、市民の視点で評価してもらい、取り組むものだ。事業を廃止、縮小することを前提にするものではない。

事務局

地震の関係で、市営住宅は、3月20日に8戸用意して被災者の受け入れを始めた。国交省の全国公営住宅一覧表にも載っているし、ヤフーの受け入れサイトにも載っている。3件の問い合わせがあり、串原出身の人が4月に入居する。飯地町の建築会社が自己所有のアパートを提供された。3月11日地震発生し、すぐに災害対策支援本部を3回やった。拡大委員会というのを初めてやった。バロー、ユニー、自治連、警察、協同組合、商工会議所、商工会、JCに集まってもらって話した。いろんな意見を聞いたが、やはり縦のライン、国から県、県から市という流れが強かった。募金は2日後にやった。現在約1,300万円集まっている。1社で5,000万というものもあった。支援活動は、消防署が第4次まで、水道課が給水活動に第2次まで出て、復旧したので今は行っていない。支援物資は、市独自では釜石市、相馬市に、瑞浪市と協働で4t車1杯。釜石は東海市と青梅協議会を通じて出した。県ルートはようやく確定し、24日から21日に宮城へボランティアを送った。恵那市民はレベルが本当に高い。若い子もてきぱきやってくれた。終わってから1時間ディスカッションしたが、恵那市職員もよくやってくれたし、我々もよかったと言ってくれた。述べ189名、実人数は130人、約800件があった。県ルートで、恵那市の備蓄品を自衛隊を通じてかなり発送した。今後はボランティアの派遣になる。第2次、第3次のボランティアの受け付け、支援物資の受付をしていきたい。

丸山委員の意見の防災のことについて、右岸と左岸の人が橋を渡って来ることは災害状況を見れば無理なので、右岸は右岸、左岸は左岸で場所を見つけようという話をしている。

事務局（教育次長）

道徳心やしつけの向上について。市民の意見で、10ページの満足度を見ると、満足が平成17年より若干増、不満足がかなり減少している。トータルで、小中学校の教育について、安定して続けていけるという捉え方かと思う。重要度が若干下がっているの、全体として今のままやってほしいという考えかと思う。学校での年度末の保護者からのアンケートでも似たような傾向だ。道徳心やしつけに力点を入れてほしいということは私どもも重要だと思っている。知、徳、体3つをバランスよく育成することが大きな課題だ。中でも道徳心は大事だ。ただ、学校教育だけでなく幼少期のしつけや環境も大きいので、地域、家庭と連携する必要がある。学校では校區別にしつけを強化しようとしている。朝御飯を取るということなど、家庭と連携しようとしている。

学校教育では道徳指導が要になる。一つは先人の生き方に学ぶということも施策にしたい。特別活動などで、授業で、子どもたちがその活動で力を得たり居場所を感じたり、役割を果たすことで能力を高め仲間づくりをし、その中で思いやりなどを育てていきたい。それが批判意識、道徳心につながっていく。特別活動、道徳の授業の充実と、教職員の質の向上を考えていきたい。

委員

東北のボランティアのことで。僕らは地域に迷惑をかけない準備をして行く計画を今立てている。恵那市はどこで募集するのか。

事務局（市民福祉部）

人的ボランティアは、恵那市社会福祉協議会で主体的に募集して取りまとめしてもらおう。恵那市のホームページ等を使って市民に広く呼びかけようと思

長) っている。まだ、いつから行く、どこの地域というところまでは確定していない。

委員 震災で想定外のことが起きたといわれたが、恵那市はどうか。ダムの決壊が考えられないか。あまり例のないことだが、アメリカでかつてあったらしい。仮にそういうことが起きたら。上矢作の災害のとき、流木が串原のダムに流れ込んで、堰堤で止めてあったが、堰堤が壊れる可能性もあったと思う。豊田まで流木が行ったら大変なことになったと思う。阿木川ダムが決壊したと想定したとき、どこまで水が上がるのか。シミュレーションしてみしてほしい。

会長 参考にして対策を練ってほしい。
2年間ありがとうございました。これで議事を終了し、会長の仕事を終わります。

5. 報告事項

①平成23年度施政方針・主要事業について

[事務局から資料に基づき説明]

事務局 質問がないようなので次に移る。

6. その他

お礼のあいさつ

市長 リニアは3月22日に古田知事、多治見・土岐・瑞浪・恵那の4市長が山田社長、副社長、専務、新幹線のリニア担当本部長に要望した。内容は、駅は早く決定してほしいことと、そこに決めた理由を話してほしいということ。350億円の地元負担は軽減してほしい。ダイヤも地元にも有利にしてほしい。など、6項目。山田社長には、1つの質問と1つの要望をした。今回の大震災で2027年の完成が遅れるのではということ。社長は、影響がないと。応援しないといけないではと聞くと、人的には応援するが金銭的には応援しないので、27年完成の考え方は変わらないということ。東濃5市でどこにできてもとということで協力しあっているが、もし駅ができたら関連する施設を東濃5市に分散してくれという話をした。どこかにできて負担金を出すということになったら困るので、東濃5市にプラスになる施設を分散してほしいと言った。よく検討するという事だった。年末までには発表するという事だ。用地買収が一番問題で、早く発表して次の段階に行かないと2027年まで時間がないと言っていた。

まだ恵那市民にはリニアの話は知られていない。去年の明知鉄道のシンポジウムで、恵那南高校の生徒が全然知らないと言っていた。市民に知らせる大会をやる必要があるのではないかと。数年前、県の促進会で、会長は多治見市長、副会長が中津川市長で、その大会には千年近くの人が集まるが、会場を多治見市、中津川市以外使わない。そのとき、瑞浪も恵那も関心があるから、その会場を移してくれと言ったら、両市長が反対した。ほかの講演

会も含めて恵那市でもやりたいと思う。
いろいろな質問の中で、特に、恵那市の財政について関心を持ってもらいたいというのが私の願いだ。予算の概要を提示した。ぜひ見てもらい、また広報で特集も組むので、財政、税収のことなどにも関心を持ってほしい。恵那市の自立に大事なものは財政の確保であり、身の丈にあった行政が必要だ。歳入が少なければそれに合わせる必要がある。

長時間ありがとうございました。

事務局

会議を終了する。有本会長、丸山副会長、ありがとうございました。来年からは推進市民委員会として総合計画の進行管理を行う。

これで終了する。

[閉 会]